

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	竹本 和憲
所属機関名	生命科学部医療技術学科
職位	助教
在籍年	17 年（医用科学教育センター16 年）

教育の責任

臨床工学技士養成教育において、各種実習分野の教育を担当している。担当科目は臨床工学技士国家試験受験に必須となる生体機能代行装置学実習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, 生体計測装置学実習, 医用治療機器学実習, 安全管理学実習, 基礎医学実習である。国家試験に向けた知識だけではなく、医療機器を安全かつ効果的に操作する技術の習得を目指す。その他、研究室所属学生の履修指導を担当している。

教育の理念

医療機器の操作方法、メンテナンス方法について、基礎医学を基盤とした知識持ち、理論に基づいた確実な医療を実践できる臨床工学技士を目指す教育を行う。また、医療機器の先には患者がいることを意識できる医療技術者の養成を目指す。

教育の方法・方針

実習では使用する医療機器の設置環境にも気をつけ、安全に実習を進めることのできる環境を整えることを学生に意識させている。実習テキストに示す医療機器の操作やメンテナンス方法に加え、医療機器を構成する部品などもなるべく実物に触れる体験型の実習を実施しており、実際に見た形状や機能について学生自身の考えを述べてもらい、学生自身の考えを言語化させる方法をとっている。うまく言語化できない学生にはイラストなどイメージを描くことで対応することもある。

実習中の学生の言動にも注意を向け、医療人としての適切な言葉遣いにも気を配る。

実習後は提出期限を設けたレポート作成を課し、実際の医療機関でも使用されるような医療機器のメンテナンス記録として見返すことのできる形で提出させる。

実習内容や国家試験過去問題についての質問がある学生には個別に対応する。

教育の成果

学生からの声として、「教科書に書いてあった内容の意味が実習で理解できるようになった」、「実習中の質問がしやすかった」との回答が授業アンケートなどにより得られている。「実習で取り扱う内容量が多すぎる」といった否定的なアンケート結果もあり、毎年実習内容の見直しで対応している。

レポート課題の修正について質問に来る学生が多く、対応後は学生の理解度が深まったという実感がある。

実習を担当した旧生命医療工学科では臨床工学技士国家試験を受験した学生の合格率が 2023 年: 100%, 2024 年: 95.2%であり、2023 年以前も全国平均以上の合格率が得られている。

今後の目標

単純な医療機器操作ではなく、理論に基づいた医療を提供できる人材の教育を目指し、臨床工学分野での基礎知識を確実に伝えるよう努める。

医療機器の警報アラーム音や動作音、周囲の匂い、対象物の色調や温度の変化、患者の変化など医療機器のみならず、医療環境に敏感な臨床工学技士を養成できるよう努める。

根拠資料

レポート課題、実習テキスト、医療機器の添付文書、授業アンケート、臨床工学技士指導者講習会テキスト